

書林

2013年4月12日 発行

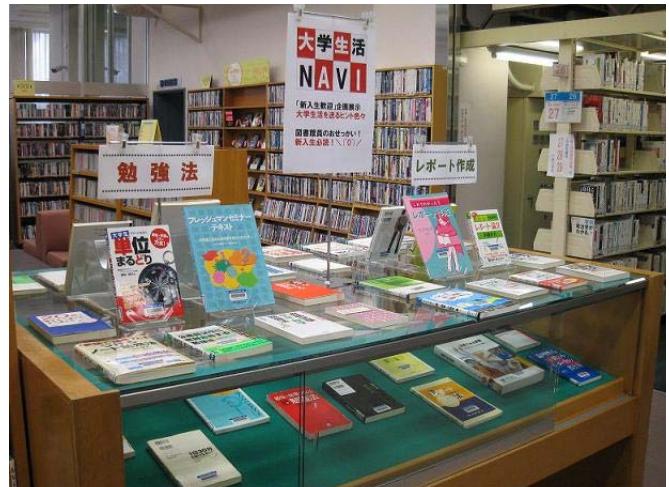
第83号

特集 新入生に贈る—この1冊—

『ああ無情』から『レ・ミゼラブル』へ	2
新入生に贈る—この1冊—	3～5
自著紹介	6～7
Welcome to SGU Library	8
from Library	9
2012年度図書館統計	10
編集後記	10

特 集

新入生に贈る—この1冊—



4月図書館企画展示「大学生活 NAVI」

新入生を歓迎して、大学生活をおくるうえで手がかりとなる資料を集めて展示しています。大学生活を案内してくれる本、勉強法、レポートの書き方などの学修のためのものから就職活動、緊急時の対応法、一人暮らしの料理本まで、幅広く展示しています。

『ああ無情』から『レ・ミゼラブル』へ

坂井 敏子(図書館)

舞台から完全映画化というキャッチフレーズに誘われて、昨年末にミュージカル『レ・ミゼラブル』を観ました。1985年の初演以来ロンドンでは27年間に亘り上演が続き、いまなおロングラン記録を更新し続け、世界43カ国、21ヶ国語に翻訳され6000万人を超える観客を動員しているといわれています。

この作品とは小学生時代に児童図書『ああ無情』『ジャン・バルジャン物語』『少女コゼット』等のタイトルで出会っていますが、どれも最後まで読んだ記憶がありません。覚えているのはジャン・ヴァルジャンという男性がパン一切れを盗んで長い間牢獄にいた程度の記憶なのです。何故これほど長期に亘り読みつかれ、上演し続けられているのかを確かめたい気持ちもありました。観終わって、歌の素晴らしさもさることながら、舞台と違って一人一人の表情が克明にわかり、また恥ずかしながら内容の概要を知ることができました。

1832年のパリ。7月革命の後も相変わらず貧困にあえぐ民衆の怒り、悲しみが沸点に達しています。貧しさゆえに犯さざるを得ない罪を体現する主人公が自らの琴線に触れるたくさんの出会いの末、憎しみから開放されるラストシーンは圧巻です。

原作は、フランスの文豪ヴィクトール・ユゴーが発表した大河小説で150年の時を経た現在の世界にも通じる内容です。繰り返しあとずれる苦難にあえぎながらも、そこに自分の強さと世の善を見出そうとするジャン・ヴァルジャンという主人公の姿を通して魂の底力を見る人すべてに与えてくれます。

以前フランスを観光旅行で訪れたことがあります。フランスへ行くのなら、フランス革命の歴史を少し学んでおこうと思いシュテファン・ツヴァイクの『マリー・アントワネット』(岩波文庫 高橋禎二、秋山英夫訳)を持って機内や飛行場での待ち時間に読んだものでした。“暗記の世界史”は、はるか昔のこととなり記憶のジグソーパズルに残っているピースは断頭台の露と消えた、マリー・アントワネット、ルイ16世、ダントン、ロベスピエールなど断片的なかけらのみ。しかし、読み始めると、訳文の素晴らしさと相まって、主要人物のエピソードが自分の中に入り込みフランス革命の一部始終を目撃しているかのように読み進める事ができ、あまりの面白さに一度読み終えると又初めから読み返し、帰国するまでに3回も読み返したほどでした。

池田理代子原作『ベルサイユのばら』は舞台化の大成功が作品のヒットに拍車をかけ、テレビアニメ、劇場版アニメなどが制作され社会現象化しました。原作者の池田理代子氏がシュテファン・ツヴァイクの『マリー・アントワネット』に感銘を受け、同小説を参考にして描いた作品と知り、大いに納得したものでした。

私はさる3月末で定年退職しました。在職中の一番長い時間を図書館のスタッフとして学生の皆さんに接していました。お気に入りの場所を見つけ毎日勉強をしている学生、1日中図書館で暮らしているような学生、キャリーバック持参で図書を借りていく学生、映画館のように通ってくる学生、友達との出会いを楽しんでいる学生などさまざまな利用の仕方を見てきました。

図書館に時を委ねるということは、そう、原作の方から近づいてくれるという贈り物があります。

皆さんも、これから図書館で共にした時の向こうに見えてくるたくさんの贈り物を受け取って欲しいと切に願っています。



■新入生に贈る 一この1冊■

『オール1の落ちこぼれ、教師になる』 宮本延春 著

角川書店 2006年

大場 隆広（経済学部准教授）



この本は一見、「教員志望の人向け」と思うかもしれません、むしろ教職とは無関係な人にぜひ読んで欲しい1冊です。宮本さんは小学校・中学校と筋金入りの（？）いじめられっ子で、勉強も苦手。どれくらい苦手かと言うと中学では全科目で最低評価1（オール1）の成績表をもらったほど。中学を卒業した後は高校には進学せず、大工見習いになりますが、その職場でもいじめにあい、人生全く良いことなし。そんな人がどうやって高校の数学教師になれたのか。そこまでの道のりはまさに波瀾万丈ですが、そんな中でも数々の貴重な出会いに恵まれます。少林寺拳法との出会い、奥さんとの出会い、建設会社の社長や専務との出会い、定時制高校の恩師との出会い。

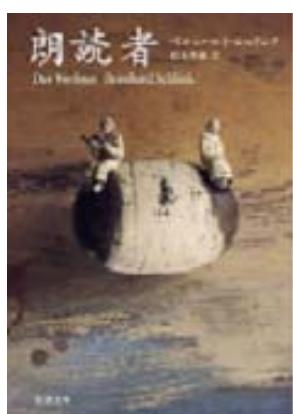
読み終わったとき、「やりたいことをやらずにいたら、死ぬ間際に後悔する」「人はいつでも、やりなおすことができる」と激励を受けたような気持ちになる本です。

(1層書架：和書 289.1-MIY)

『朗読者』 ベルンハルト・シュリンク 著；松永美穂 訳

新潮文庫 2003年

藤野 友紀（人文学部准教授）



正直に告白すると、私は翻訳小説があまり得意ではない。これまで読んだ本は余裕で5本の指に収まるくらいだ。その数少ない1冊がシュリンクの『朗読者』である。主人公の「ぼく」は15歳のとき、36歳のハンナと恋に落ちた。二人は毎日のように逢瀬を重ね、いつからかぼくはハンナの求めに応じてベッドで本を朗読するようになる。ところがある日、ハンナの失踪によって突然の別れが訪れる。そして青年になった「ぼく」は思ってもみなかつた形でハンナと再会するのだった。戦争にまつわる彼女の過去に触れたぼくは、二人の愛しあった日々に潜んでいた彼女の孤独に気づいていく。

私たちは「ぼく」とハンナの物語をとおしてあらためて知るだろう。ともに過ごした時間は短くても、たしかに存在した濃密な時間が人生に影響を与え続けることを。誰かを愛し理解しようとするなら、必然的に自分の逃げや裏切りと対峙せざるをえないことを。これから人生の物語を紡いでいくあなたにこの本を薦めたい。

(2層書架：文庫 943-SCH)

■新入生に贈る 一この1冊■

『大学新入生に薦める101冊の本』新版 広島大学101冊の本委員会 編

岩波書店 2009年

大橋 伸和（人文学部人間科学科4年）



新入生のみなさん、大学入学おめでとうございます。大学という場所は、入学間もない方にとって「何をすればいいのか」と、途方に暮れることもあるかもしれません。これまでの小・中学校、あるいは高等学校等で送ってきた学校生活とは違うところがあるのは確かだと言えます。

このような大学での、生活の送り方・求められる力等の手がかりになる本は数多く、すべてを紹介できないほどです。そこで、それらの本への橋渡し役として総合的に案内してくれる『大学新入生に薦める101冊の本』を推薦します。

様々な本を読み、教養を深めることは単に知的好奇心を満たすだけではなく、人間性を育んでくれる一面もあると思います。その人間性を大学在学中に向上させることができ、後の就職活動や社会生活を豊かにしてくれるものだと確信しています。

入学間もないころは、何気なく目にとまった本を読むのが良いと思います。そして、3年生以降には目的意識を持って教養を深めることも大切になると思います。是非、これからの中学生生活を楽しんでください。

(1層書架：和書 019-HIR)

『植物図鑑』 有川 浩 著

角川書店 2009年

宮崎 杜（経済学部経済学科3年）



春から大学生として素敵なおしゃれライフを送る皆さん！勉強のための専門書や教科書もいいですが、たまに素敵なお話で息抜きしてみませんか？

そんな時のために私がお勧めしたい1冊は有川浩の「植物図鑑」です。なんだかお堅いタイトルですが、実は思わず顔がほころんでしまうような甘い恋愛小説。誰もが一度は憧れる理想の恋がこの1冊に凝縮されているのではないかでしょうか。

平凡なOLである主人公が、行き倒れの青年を拾ったことから始まる不思議な同棲生活と週末の野草探索。初めはただの同居人だったはずが、いつの間にか彼を想い嫉妬したり泣いてしまったり…気がつかない内に好きになっていた。そんな主人公の甘酸っぱい気持ちの描写が読者である私たちの共感を誘います。そして幸せな同棲生活に訪れた急展開に思わず涙が…。

起承転結がわかりやすく、読みやすさも抜群！長編小説に飽きてしまいがちな私でも、一気に読み切ってしまう程の面白さに脱帽です。

(1層書架：和書 913.6-ARI)

■新入生に贈る 一この1冊■

真夜中のパン屋さんシリーズ 『真夜中のパン屋さん：午前0時のレシピ』

『真夜中のパン屋さん：午前1時の恋泥棒』ほか

大沼紀子 著 ポプラ文庫

尾崎 由香里（臨床心理学研究科2年）



私がお勧めしたい本は、大沼紀子著「真夜中のパン屋さん」シリーズです。女子高生の希実の母親は、自由奔放で、幼いころから希実を知人の家へ預けて育てていました。高校生になった希実が家へ帰ると、突然母が消えており、希実の腹違いの姉の家へ行くよう置手紙が残されていました。その姉の家が、物語の舞台となるパン屋さんです。このパン屋さんは、住宅街の中にあり、真夜中にだけ開く不思議なパン屋さんです。腹違いの姉は既に亡くなっています。その旦那さんが残されたパン屋さんを経営しています。優しいけれどどこか掴めない感じのあるオーナーの暮林と、ぶっきらぼうだけどパンに対して真面目なパン職人の弘基。この2人やパン屋さんの常連客との関わりから希実に変化がみられます。

それぞれが事情を抱えながらも、人間同士の温かい関わりが見れる素敵なお話です。パンの表現がすごくおいしそうで、読んでいるとパン屋さんへ行きたくなってしまいます。

(2層書架：文庫 913.6-ONU)

～不思議を考えるこころ～

『深呼吸の必要』 長田 弘 著

晶文社 1984年

大川 幾子（キャリア支援課）



LL室のドアを開けると、彼が座っていた。こちらにかるく会釈をして、本の上に目をおとす。「ここで働くことになりました。よろしくね。」と話しかけると「おとのの都合だね」と言いたそうに、眼を大きく見開いた。若い力を社会に送り出す職場で働きたいと、民間企業の経理事務から転職。学生との最初の出会いだった。

それから1年。「大川さん、詩って読みますか？」と彼。長田弘の『深呼吸の必要』を読んでみろと言う。

「そのとき、きみはもう、一人のこどもじゃなくて、一人のおとなになってたんだ。」

(『深呼吸の必要』“あのときかもしれない”より)

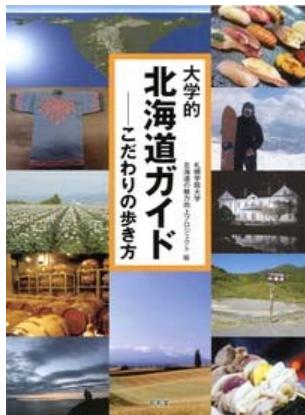
立ち止まることをしないで時に流されてきた自分、日常に意識を傾ける余裕を持たずにここにいる自分を見つけ、動搖した。その一方で、おそれを乗り越える決心をすることが勇気であり、自己変革への一歩と思うようになった。

本の虫だった彼は高校の英語の教師になった。いつも真摯に生徒の気持ちを深呼吸するような指導を続けているに違いない。

(3層書架：和書 911.5-OSA)

『大学的北海道ガイド：こだわりの歩き方』

札幌学院大学北海道の魅力向上プロジェクト 編
昭和堂 2012年



2012年12月に、札幌学院大学の教員11人の執筆による『大学的北海道ガイド～こだわりの歩き方～』が出版されました。「大学的」とあるように、この本は日本各地の大学が地域の歴史や文化などを取上げて執筆し、全国に向けて発信する本です。奈良女子大学による『大学的奈良ガイド』を第1冊目とするシリーズ本の第7冊目にあたります。本書は専門書と旅行ガイドブックとの中間に位置づけて執筆され、多くの人たちに楽しく読んでいただきたい、その場所を訪ねて欲しい、そして北海道にもこんな側面があったのか、と知って欲しいという執筆者の思いが溢れている本です。

歴史、自然、文化、そのどれひとつとっても日本の中で独自の地位を築き、それらが入り交り全体として醸し出す雰囲気は、多くの人に魅力的に

映っています。ることは、都道府県別魅力度ランキングにおいて常に上位に位置づけられることからも明らかです。そのような北海道を研究者たちが「歴史・文化」「自然」「食」について新たな切り口で簡潔に紹介をしています。

北海道の歴史・文化は時間軸で捉えると短いと言わざるをえません。しかし、それは明治の開拓が始まってからの話であり、それ以前からアイヌの方々によって歴史が刻まれてきています。そこで「歴史・文化」をアイヌ文化から解き明かし、そして開拓使10年計画に基づく札幌のまちづくりや地域主義が北海道内で最も定着している十勝の自然、歴史を中心に、その魅力を探訪しています。さらに、日本の漫画はクールジャパンとして世界から注目されていますが、北海道は多くの漫画家を輩出し、北海道が漫画の題材にも取上げられている状況についても語られています。

食については、今では誰もが知っている居酒屋や新ご当地グルメ、回転ずしの歴史や特徴などが、つい実物を脳裏に浮かべて食べたい・飲みたいと思わせるタッチで書かれています。また最近急激に関心を持たれてきている北海道のワインについても紹介しています。

そして自然については、北海道の大地を地球という長い時間のスケールでみていきます。北海道の大地がどのような仕組みでできてきたのか。そして大地の営みが、今の自然にどのような影響を与えていくのかを、分かり易く解説しています。自然が原始のままで存在している一方で、人の手で巧みに作り上げられた美しさを有する等、北海道固有の姿をもつことも示されています。本州の人々にとっては、本州とは異なった独特的な雰囲気を感じ取ることが出来るのが北海道です。

北海道の魅力再発見に寄与できる本だと執筆者一同思っていますので、ぜひ学生の方々に卒業までに一度読んで欲しいと思います。

(本学教員著作コーナー：和書 291. 1-SAP)
(1層書架：和書 291. 1-SAP)

『詳しくわかるモンゴル語文法』

山越 康裕 著
白水社 2012年



タイトルから推測できると思いますが、この本はモンゴル語の文法を学ぶ人のために執筆した学習書です。とくに、初めてモンゴル語を学習する人や、会話型の学習書で学んだ後にモンゴル語の文法のしくみを改めて学び直したい人を対象としています。文字の読み方からはじまり、名詞のふるまい、動詞のふるまいを学びながら、徐々に文の構造を習得していくよう構成されています。初学者にわかりやすいように、なるべく平易な説明で、なおかつ詰め込み過ぎないように配慮を重ねて執筆しました。各課に練習問題をつけ、また実際の音声を収録したCDも付録としてつけ、独習できるようになっています。

「モンゴル語」といわれても、本学に在籍するみなさんの多くにとっては、それがどのような発音で、どのような文法のしくみをもっているのかさえ知らない、未知の存在だと思います。本学で選択できる外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）に比べたら、はるかに使用人口の少ない言語です。しかしながら、モンゴル語が公用語となっているモンゴル国にかんするニュースは意外と多く見聞きします（これは私がモンゴルにかかわっているために、そう感じているだけなのかもしれません……）。大相撲が始まればモンゴル人力士の話題がニュースにならない日はありませんし、さきの東日本大震災の際には、海外諸国とのなかでいち早く支援を表明し、国家公務員全員の給与1日分が義援金として寄付されたことなども話題にのぼりました。人口300万人にも満たない小さな国家ですが、その存在感は決して小さくなっています。その存在感の高まりとともに、じつはモンゴル語を学習する人も徐々に増えています。日本国内でも、カルチャーセンターなどをはじめモンゴル語を学習することができる場がますます増えてきています。

しかしながら、モンゴル語を学習するための教材は充実しているとはいがたい状況にありました。ここ数年でいくつかの語学書が出版されましたら、多くは会話から入る教科書のタイプで、文法の説明に乏しい内容でした。一般の方がアクセスしやすい形で、つまり日本語で書かれていて、文法項目が一通り説明されているような市販の学習書はほとんどありませんでした。会話の用例を学んだところで、それを応用して別の表現を作ったり、モンゴル語で書かれた文章を読んだりするのは困難です。使いこなすためには文法の知識が欠かせないのですが、それに応えてくれるような市販の学習書がなかったのです。

モンゴル語学習におけるこの状況は、英語やフランス語、中国語などとは対称的です。メジャーな言語を学ぶための学習書というのは、非常にバリエーションに富んでおり、学習者が書店で手にとって、どれがよいか吟味したうえで購入することができます。モンゴル語のような少しマイナーな言語のための学習書はそういう選択ができません。こうした状況を少しでも変えることができればという思いが、この本の執筆につながりました。この本がモンゴル語を学ぶためのベストな書籍というわけではありません。それでも、これまで欠けていた部分を埋めたという点では、一定のニーズに応えることができたのではないかと考えています。

幸いなことに、モンゴルの広大な草原を思い起こさせる美しいデザインの表紙に装丁していただくことができました。この表紙に目がとまり、この本を手にとって、それをきっかけにモンゴル語に、そしてモンゴルに興味をもつ本学学生が出てくることを願っています。ちょっと変わったことを、大学生のうちに学んでみませんか。

（本学教員著作コーナー：829. 555-YAM）

Welcome to SGU Library

瀧澤 颯大さん（人文学部臨床心理学科2年）



「自分が動き出すことで状況が変わる！」

瀧澤さんは、臨床心理士を目指して本学に入学した。授業がなくても毎日1講時から大学に来ている。学業、バリアフリー委員会の活動、学外でのボランティアと忙しい日々を送っているにもかかわらず、「楽しい」という言葉がしばしば瀧澤さんから聞かれる。そんな瀧澤さんに大学生活について伺った。

——本学の臨床心理学科を選んだ理由は？

「高校3年の時に、進路に悩んでいて高校の先生に相談したら、本学の大学院の臨床心理学研究科が有名と奨められました。そこで、将来は臨床心理士の資格を取得してスクールカウンセラーになりたいと思い入学しました。」

——入学して1年ですね、大学生活は予想どおりでしたか？

「入学直後はパニックでした。新入生ガイダンスでは提供される情報量が多く、しかも、卒業要件、履修登録、情報ポータル、資格取得など、高校までには経験したことのないことばかりで、大学のシステムが理解できず、分からぬことだらけでした。何が分からぬかさえ分からず、でも、履修登録はしなければならず、不安でいっぱいの状態でガイダンスの教室を出ると、目の前に学習支援室がありました。藁をも掴む思いで入った学習支援室のスタッフや上級生のサポートで乗り越えることができました。学習支援室の存在は大きかったです。その後も利用し続け、大学生活で大いに助かっています。」

——大学の授業はいかがですか？

「高校と違って、大学の授業はピンポイントで絞って深く学べるので楽しいです。授業が進んでいくと、前回の授業内容が応用されているのが分かって面白いです。最初はちょっとイメージと違うかなと思っても、3~4回目になると楽しくなってきます。数学が好きなので、数学的要素のある「心理学研究法A」はとりわけ面白かったです。専門知識だけではなく、目標を達成するための取り組み方なども学べてすごい授業でした。」

——課外活動はいかがですか、バリアフリー委員会で活動しているそうですね？

「『ノートテイクをすると謝金がもらえる』と聞いてアルバイト感覚でバリアフリー委員会に入ったのですが、いろいろ刺激を受けています。手話を使って難聴の学生と話している先輩たちを見てすごないと感心して、自分も手話を学び始めました。他の学科の学生もいて、色々な経験をできているので楽しいです。今では、お金よりも人と関わること、人間関係を築くことが自分にとってバリアフリー委員会での大きな活動の一つになっています。」

バリアフリー委員会では、障がいを持つ学生と関わることが主なので、活動を通して、障がいのある人に対する見方が変わり視野が広がりました。障がいのある人がどんなことを感じ、考えているのか、彼らの心理学についても学びたいと思うようになりました。」

——図書館のお気に入りの場所は？

「ラウンジの新聞コーナーが好きですね。『北海道新聞』、『朝日新聞』、『毎日新聞』『読売新聞』『日本経済新聞』などの主要な新聞があって、読み比べができる楽しいです。スポーツが好きなので、スポーツ紙が揃っているのも嬉しいです。また、グループ学習室は声のボリュームを気にせずに話し合えるので、友達とテスト前の勉強会などに使っています。」

——新入生に向けて助言をお願いします。

「“案ずるより産むが易し。”挫けずにやり続けていたら何とかなります。困ったら誰かに相談しましょう。何が分からぬかとも、分からなかつたりしますが、そのままにしないで、誰かに訊きましょう。とにかく自分が動き出すことで状況が変わります。」

——臨床心理士になるための大学院進学と精神保健福祉士受験資格取得を目指して、これからも頑張って下さい。今日はありがとうございました。

～ 四コマまんが ～

三浦 仁史（図書館）

四コマまんが、みんなどれくらい見ているだろう？ 私はほぼ毎日。新聞に載っている四コマまんがを楽しみにしている。いま私が気に入っているのは、北海道新聞の夕刊に掲載されている『うちの元気予報』。新田朋子さんの作品。

小学3年生で勉強ぎらい(?)の晴太、おませなユキお姉ちゃん、お酒が好きでサラリーマン、小太りのお父さん、パーマをかけた優しい(晴太にしてみると怖い?)お母さん、痩せてまゆ毛が太いおじいさん、対照的に太って丸い顔をした食欲旺盛なおばあさんの6人家族が主な登場人物。

四コマまんがは“起承転結”を短いコマ数で表現するので、とてもむずかしい。『うちの元気予報』は、ほのぼのとしたことを題材にしながら、季節・時世に関することも時折テーマとしている。私の感想として、いわゆる“オチ”とおばあちゃん、おじいちゃんの表情がいい。いろいろなニュースが同じ紙面に載っている中で、ホッと一息つかせてくれる。

2つのシーンを紹介しよう。読みながら4コマまんがのカットを想像してほしい。

①おばあさんが10年以上着用し、ほつれている服を見た孫の晴太が、10年も経ったら普通は着なくなっているだろうと思っておばあさんに聞いたら、おばあさんは自分だけではなく、おじいさんもずっと長く着ているという。そしておじいさんに聞くとそこに“オチ”があって、数ヶ月洗濯しないで着続けていて、服のにおいを嗅ぐ…という展開。

②だいぶ前に店で見かけたコートがあって、気にかけていた、というのをおじいさんが覚えていて、たまたまその店に入ってきた。おばあさんはそのコートのことをするつかり忘れていたが、おじいさんに言われて思い出す。でも時間が経ってしまい、どうでもいいと思ってさりげなくそのコートをさがす。が、気にかけていたコートが既に売ってしまったと気づく。“オチ”は、とたんにそのコートが欲しくなってしまい、以前に買わなかつたことを後悔してしまう。



日本の四コマまんがの源流はどこにあるのか？清水勲さん著作『四コマ漫画：北斎から「萌え」まで』（岩波新書）によると、江戸時代後期に出された『北斎漫画』の中には、ページの中に4つの絵が配され、その最後で“オチ”をつけたものがあり、清水勲さんは「4コマ漫画の源流」と書いていている。

また、四コマまんがはどれくらいあるのか？長谷川町子さんの『サザエさん』、横山隆一さんの『フクちゃん』、佃公彦さんの『ほのぼの君』、やくみつるさんが野球を題材としたものなど、挙げればきりがない。

源流といわれる『北斎漫画』のころから現代にいたるまでの4コマまんがを並べてみてみたいものだ。おそらく、その時代ごとの“空気”を感じることができるのでないだろうか？

2012年度 図書館利用統計・蔵書統計

表1. 開館日数

通常開館	休日開館	短縮開館	開館合計	休館	総計
195	42	90	327	38	365

表2. 入館者数

9:00～17:00	17:00～21:30	合計	1日当たり
211,422	50,127	261,549	799.8

表3. 館外貸出者数

学生・院生	教職員	その他	合計
24,119	3,134	1,133	28,386

表4. 館外貸出冊数

学 生・院 生	教職員	その他の	合 計
45,333 (学生・院生1人当:12.6)	10,207	3,732	59,272

表5. 館外貸出冊数の内訳

	学生・院生	教職員	その他	合 計	前年比
和 書	40,182	7,977	3,607	58,012	89.3%
洋 書	3,933	1,398	125	5,456	156.7%
雑 誌	1,182	832	0	2,014	108.2%
合 計	45,333	10,207	3,732	59,272	93.6%

表6. 第4閲覧室・グループ学習室のパソコン利

(ログイン回数)

第4閲覧室	グループ学習室	合計	1日平均	1台平均
34,989	10,252	45,241	138.4	904.8

表7. 相互協力

(件)

文献複写		現物貸借	
複写依頼	複写受付	貸借依頼	貸借受付
957	2839	419	474

表8. 蔵書冊数

(冊)

和書	洋書	図書合計	視聴覚	総合計
457,641	129,078	586,719	25,274	611,993

2012年度受入冊数: 15,193 冊 (図書・製本雑誌・視聴覚資料)

編集後記

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今年の入学式は残雪の中で迎えましたが、日差しの暖かさや日照時間の長さから季節が巡っているのが感じられます。何よりも新入生の皆さんのかわいい姿が春を感じさせてくれています。

巻頭の『ああ無情』から『レ・ミゼラブル』へは、40年近く図書館で勤務し今年3月に定年退職された坂井敏子さんからの学生の皆さんへのメッセージです。時を経てこそ見えてくるものがある、知識の累積によってわかってくることがある。時間をかけることの大切さについて考えさせられます。

特集「新入生に贈る一冊」では、選者それぞれの視点から多様な6冊の本を紹介していただけました。4コマ漫画の源流まで辿るのも面白そうですね。

多数の方のご協力により『書林』第83号を発行できました。ご多用にもかかわらず快く執筆やインタビューを引き受け下さった学生の皆さん、教員ならびに職員の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございます。

札幌学院大学図書館報「書林」第83号について

*掲載記事の著作権は札幌学院大学図書館にあります。

*記事・写真の無断転載は禁止します。

*紹介図書の写真については、各出版社から掲載許諾を頂いております。

許諾を下さいました各出版社の皆様には心からお礼申し上げます。